

低線量 CT による肺がん検診・喀痰細胞診について

Q：低線量 CT による肺がん検診では何がわかりますか？

A：ヘリカル CT をとることで胸部レントゲンよりも詳細に肺の状態がわかります。よって、症状のない初期段階の小さな肺がんを発見できる可能性があります。

Q：喀痰細胞診では何がわかりますか？

A：痰の中にがん細胞があるのかがわかります。

がんが小さい場合や気道と交通していない場合などではあまり有効ではありません。一部の肺がんは胸部レントゲンに写る前に、痰の中にがん細胞を認めるものがあり、このようなタイプの肺がんは喫煙者に多いため、喫煙指数(一日喫煙本数×喫煙年数)が 600 以上の方は胸部レントゲンと同時に喀痰細胞診が推奨されています。しかし、この検査は、あくまで肺がん診断のための一助にすぎず、この検査の結果が正常であっても肺がんが否定されるわけではありません。

Q：低線量 CT による肺がん検診を受けることで身体への影響はないのですか？

A：放射線の被曝の問題がありますが、検診する上で、被曝のデメリットよりも検診のメリットが上回る、との見解があります。これに納得された上で検診なさることをお勧めします。被曝量は胸部レントゲンに比べ約 10 倍と多いですが、以前よりも低線量になりました。参考までに当健診センターでの放射線量を記します。

胸部レントゲン : 0.16mGy C T : 1.5mGy

Q：低線量 CT による肺がん検診のデメリットは何ですか？

A：繰り返しになりますが、放射線の被曝量が胸部レントゲンに比べて多いことです。また、検診一般に言えることですが、疑わしい所見の場合は要精密検査もしくは要再検の指示となることが多く、実際に肺がんである可能性は 10~20 人に 1 人程です。病院で行われる通常の CT (胸部 C T : 10mGy) より身体に負担が少ない分、やや解像度に欠ける低線量の CT 検査になっていることも関係しています。よって検診だけでは診断はできず、癌ではなかった場合、受診の手間や精密検査に関連する心身の負担を生じてしまう事です。